

第68回 発電用設備規格委員会 原子力専門委員会 議事録

1. 日 時：2012年2月22日（水）10:00～21:20
2. 場 所：日本機械学会 第1会議室
3. 出席者：(委員24名中、出席者20名；敬称略)
小山（三菱重工）、永田（日立GE）、堂崎（日本原電）、三木（富士電機）、植田（原安委）、小木曾（川崎重工）
国則（電気協会）、鬼沢（JAEA）、三浦（JSW）、鹿島（電中研）、肥田（中部プラントサービス）
町田（テプコシステムズ）、野村（関西電力）、山田（中部電力）、杉江（原技協）、月森（JAEA）
佐藤（発電技検）、菊池（JNES）
欠席：兼近（鹿島）、栗飯原（東大）、望月（阪大）、天野（保安院）
代理：齊藤（東芝：平山委員）、濱中（東電：小島委員）、
オブザーバー：三枝（電中研）、片山（関西電力）、阪田（OCL）、北条／川原／山本（三菱重工）
山本／大野（東芝）、伊藤（東電）、寺門（日本原電）、浅山（JAEA）、澄川（日立）
加納／高坂／平（日本原燃）、齋藤（原技協）、下条（神戸製鋼所）、宮口（IHI）
事務局：高柳／栗津
4. 配布資料
68-1：第67回原子力専門委員会議事録案
68-2：投票結果
68-3：新規質問、未回答質問及び公衆審査結果
68-4：第59回発電用設備規格委員会議事録案、拡大規格委員会資料及び学協会資料
68-5：原子力専門委員会委員／分科会委員案
68-6-1：専門委員会運営規約等改訂対応
68-6-2：次年度規格案策定計画
68-6-3：書面投票時の意見対応に関するガイドライン案
68-6-4：引用する規格の年版について
68-6-5-1：材料規格改訂方針検討タスク終了提案
68-6-5-2：材料規格改訂方針検討タスク活動報告書
68-6-6：デジタルRT技術を用いた規格案の作成に対する御意見伺いで頂いた意見への対応案
68-6-7-1：外部事象起因シビアアクシデント対応設備設計ガイドラインの策定進捗状況
68-6-7-2：発電用原子力設備規格 外部事象シビアアクシデント対策設備設計ガイドライン（BWR編）Appendix-1,2 関連海外文献等の調査結果、ハザードシナリオに基づく外部事象シビアアクシデント対策の検討
68-6-7-3：過酷事故対策設計ガイドライン Appendix-3 福島事故プロセス分析に基づく過酷事故対策の検討
68-6-8：JNESによる技術評価対応ガイドライン案
68-6-9：事例規格集の発行、出版に関する提案
68-6-10：MDEPの状況
68-7-1：原子力専門委員会での維持規格案に対する再投票結果と対応について
68-7-2：原子力専門委員会での溶接規格案に対する再投票結果と対応について
68-7-3：原子力専門委員会での設計規格案に対する再投票結果と対応について
68-8-1：高速炉規格2012年版案
68-9-1：使用する材料の規格における改正JIS材料の使用について
68-9-2：材料規格（2011年版）改訂提案
68-9-3-1：JIS2010年改正対応サマリ
68-9-3-2：JIS2011年改正対応サマリ
68-10-1：金属キャスク構造規格 質疑応答対応
68-10-2：金属キャスク構造規格 誤記訂正対応
68-10-3：金属キャスク構造規格 改訂版作成方針
68-10-4：金属キャスクバスケット用ほう素添加アルミニウム合金等事例規格案

- 68-10-5：金属キャスク構造規格 溶接部機械試験事例規格
- 68-11-1：磨き加工による応力改善方法規格案
- 68-11-2：弁、ポンプの溶接継手に関連する非破壊検査要求の適正化案
- 68-11-3：【事例規格】ニッケル合金溶接金属のBWR環境中SCCき裂進展速度案
- 68-11-4：試験カテゴリC-F全体積UT代替可否案
- 68-11-5：テンパービード溶接工法改訂案
- 68-11-6：JEAG4217-2010 渦電流探傷試験指針の取込み案
- 68-11-7：封止溶接方法規格案
- 68-12-1：設計・建設規格及び材料規格適用年版見直し／原子力専門委員会書面意見に対する回答案
- 68-12-2：溶接後熱処理を要しないもの／原子力専門委員会二次投票意見に対する回答案
- 68-12-3：破壊靱性試験方法及び判定基準／規格委員会書面投票意見に対する回答案
- 68-12-4：溶接規格2012年改訂版案／原子力専門委員会書面投票提案
- 68-13-1：設計・建設規格への質問回答案件
- 68-13-2：設計・建設規格第Ⅰ編2012年改訂版追加改訂案原子力専門委員会書面投票回答案

5. 議事内容

(1) 開会

小山委員長が委員会開会を宣言した。

(2) 出席者紹介

出席者全員の自己紹介を行った。

(3) 議事次第確認

議事次第案の確認を行い、変更の提案はなく、承認された。

(4) 前回議事録確認【資料68-1】

前回議事録案については既に事務局から関係各位に送付済であるため、内容紹介は省略したが、承認された。

(5) 投票結果報告【資料68-2】

事務局より、原子力専門委員会投票 No. 256 から 259、規格委員会投票 No. 183 から 188 の投票結果が報告された。

(6) 新規質問、未回答質問及び公衆審査結果【資料68-3】

事務局より、設計・建設規格に関する質問（2件）、金属キャスク構造規格（2007年版）に関する質問（1件）の受付が報告された。

また設計・建設規格第Ⅱ編2011年追補版案、維持規格事例規格ニッケル合金溶接金属の大気中の疲労き裂進展速度案、溶接規格事例規格母材のP-No区分案、コンクリート製原子炉格納容器事例規格材料規格、設計・建設規格及び溶接規格の読替規定案に関する公衆審査が終了し、意見がなかったことが報告された。

(7) 第59回発電用設備規格委員会議事録等報告【資料68-4】

小山委員長より、第59回発電用設備規格委員会の議事録等が報告された。2012年1月24日に臨時拡大規格委員会が開催され、シビアアクシデントに対応したガイドライン等の検討状況が報告された。また原子力学協会による福島事故後の原子力安全確保に向けた学協会規格の一層の活用提言状況が報告された。

(8) 原子力専門委員会委員／分科会委員の承認【資料68-5】

事務局より、以下の通り原子力専門委員会、原子力専門委員会傘下の各分科会委員の再任、退任、新任の委員候補が報告された。

原子力専門委員会：

〔再任〕 小木曾委員、兼近委員、野村委員

設計・建設分科会：

〔再任〕 永田主査、朝田幹事

維持規格分科会

〔再任〕 新井幹事、和地委員

溶接分科会：

〔再任〕 南委員、浅野委員

〔退任〕 中林委員

〔新任〕 上野氏（日本原電）

使用済燃料貯蔵施設分科会：

〔再任〕 石生委員

配管破損防護設計分科会：

〔再任〕 高橋主査

〔退任〕 北浦委員

〔新任〕 真部氏（関西電力）

コンクリート製格納容器規格分科会

〔退任〕 伊東委員

〔新任〕 古川氏（日本原電）、武井氏（電源開発）

環境疲労評価分科会

〔再任〕 中村主査、樋口副主査、楠委員、波木井委員、齋藤委員、秋山委員

再処理設備分科会：

〔三役〕 澄川主査→委員、山本委員→主査

配管減肉分科会：

〔退任〕 水谷委員

〔新任〕 下浦氏（NEL）、北条氏（三菱重工）

事務局及びオブザーバー退室後、審議した結果、原子力専門委員会委員の再任候補が了解され、各分科会委員の再任候補、新任候補が承認された。

（９）原子力専門委員会運営に関する審議／報告事項

〔審議事項〕

（９－１）専門委員会運営規約改訂【資料68-6-1】

堂崎幹事より専門委員会運営規約改訂対応案に関する説明が行われた。議論の結果、改訂対応案が妥当であること、規格委員会に対応案を説明することが委員多数の賛成（賛成16票、反対3票）により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・委員の貢献度を評価する際、当初は出席実績を考慮する案としていたが、大学の教員の委員は代理も立てられず、また講義等の状況により思うように出席できない場合があるため、出席実績を考慮する案は取り下げた。
- ・規約修正案における「業務内容」とは機械学会における活動の内容のことか？→機械学会ではなく、その委員の所属先での本来の業務のことである。→委員の所属先での本来の業務を考慮することは不要ではないか。委員は皆忙しい中、機械学会の活動に協力している。→出席を伴わなくてもメールによる意見等で貢献することもできる。

（９－２）次年度規格策定計画【資料68-6-2-1~4】

小山委員長より平成24年度活動計画、規格整備に関するロードマップ、技術評価予定に関する説明が行われた。内容等についてコメントがある場合、1週間程度で小山委員長まで連絡することになった。

（９－３）書面投票結果の意見対応に関するガイドライン案【資料68-6-3】

小山委員長より書面投票結果の意見対応に関するガイドライン案について説明が行われた。議論の結果、御

意見伺いの原子力専門委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

(9-4) 引用する規格の年版について【資料 68-6-4】

堂崎幹事より引用する規格の年版に関する説明が行われた。議論の結果、御意見伺いの原子力専門委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

(9-5) 材料規格改訂方針検討タスク【資料 68-6-5-1, 2】

齋藤タスク主査より材料規格改訂方針検討タスクの終了提案に関する説明が行われた。議論の結果、タスク終了に関する原子力専門委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

(9-6) デジタル R T 技術を用いた規格案の作成に対する意見対応【資料 68-6-6】

山田タスク主査よりデジタル R T 技術を用いた規格案の作成に対する意見対応に関する説明が行われた。議論の結果、対応案が妥当であること及び規格委員会に对应案を説明することが委員全員の賛成により承認された。

(9-7) シビアアクシデント対応設計ガイドライン【資料 68-6-7-1~4】

宮口規格委員会副委員長よりシビアアクシデント対応設計ガイドラインの検討状況について説明が行われた。今後ガイドライン案の一部を修正した後、3 月初旬に原子力専門委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

(9-8) JNES による技術評価対応ガイドライン案【資料 68-6-8】

小山委員長より JNES による技術評価対応ガイドライン案について説明が行われた。本件、JNES が 4 月に組織改編を迎えることから、検討をいったん保留とし、4 月以降再度議論することとした。

(9-9) 事例規格集の出版提案【資料 68-6-9】

齋藤タスク主査より事例規格集の出版提案に関する説明が行われた。議論の結果、以下の対応が委員全員の賛成により承認された。

- ・事例規格集の発行、出版に関する提案を行うのに伴い、発電用設備規格の原案策定に関する内規を改訂するが、その際、引用規格年版に関する内規改訂提案をこれに含めて一本化して原子力専門委員会書面投票を実施する。
- ・事例規格集の発行、出版に関する新しい内規の提案は原子力専門委員会書面投票を実施する。
- ・事例規格集の発行は各分科会レベルで提案を行う。本日提案のあった「設計・建設規格」関連の事例規格は別途、設計・設計建設分科会で審議の上、原子力専門委員会に提案する。

(9-10) MDE P 対応状況【資料 68-6-10】

永田副委員長より MDE P 対応状況について説明が行われた。主な内容は以下の通り。

- ・CORDEL グループは harmonization をやりたい意向。当面は administration 的な分野では NDE が対象。技術的な面では弾塑性応力評価が対象。
- ・現在、CORDEL, SDO, CSWG という三者がそれぞれ動いている状況。
- ・MDE P 対応のタスクの活動状況は次回原子力専門委員会で紹介予定である。

(10) 原子力発電用設備規格に関する報告／審議

(10-1) 再処理設備規格改訂案に関する審議【資料 68-7-1~3】

再処理設備分科会の山本主査、澄川委員、加納幹事、設計規格作業会の平幹事、溶接規格作業会の大野副主査、高坂幹事より再処理設備規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①維持規格案に対する投票結果対応【資料 68-7-1】

原子力専門委員会再投票結果（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。本件、意見者は回答案を了解済であり、現在規格委員会の書面投票が実施中である。

②溶接規格案に対する投票結果対応【資料 68-7-2】

規格委員会書面投票結果（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。本件、意見者は回答案を了解済であり、議論の結果、回答案が編集上の修正であること及び規格委員会に回答案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・耐圧試験の一部の規定において再処理設備規格の設計規格の規定を参照しているが、規格購入者から見ればこのために設計規格も見なければならぬ。規格購入者の利便性を考えれば将来的には該当する設計規格の規定を入れ込むのが望ましい。→今後検討する。

③設計規格案に対する投票結果対応【資料 68-7-3】

規格委員会書面投票結果（反対票有り）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が編集上の修正であること及び規格委員会に回答案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・軽水炉の設計・建設規格において、クラス 3 機器で板厚 63mm 以下の場合、破壊靱性試験は落重試験とシャルピー衝撃試験のどちらでも選択できる規定となっている。→回答案で問題ない。
- ・一次曲げ応力という用語があるが、一次は不要ではないか？膜応力同様、曲げ応力は一次応力しかない。→今回の投票範囲外であるが、今後検討する。

（10-2）高速炉規格改訂案に関する審議【資料 68-8-1, 2】

高温規格分科会の浅山主査より高速炉規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①設計・建設規格第Ⅱ編高速炉規格 2011 年追補版

公衆審査の結果、意見がなかったことを踏まえ、第 59 回規格委員会で発行承認が得られたことより、現在 2011 年追補版として発刊準備中との報告があった。

②設計・建設規格第Ⅱ編高速炉規格 2012 年版

改訂の趣旨、材料専門委員会におけるレビュー状況等に関する説明が行われた。議論の結果、原子力専門委員会書面投票を実施すること、原子力専門委員会書面投票可決を条件に規格委員会に書面投票の実施を提案すること及び材料専門委員会に対するレビュー回答状を送付することが委員全員の賛成により承認された。

（10-3）材料規格改訂案に関する審議【資料 68-9-1~3】

材料分科会の山田主査より材料規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①使用する材料の規格における改正 JIS 材料の使用【資料 68-9-1】

材料規格における JIS 改正対応の方針に関する説明が行われた。JIS 改正対応は規格の改訂をもって行い、また改正 JIS 材料の使用の可否は現行通り質疑応答により行うもので、議論の結果、委員全員の賛成により方針は承認された。これにより今後 JIS 年版読替の事例規格は作成しないことになる。また本件に関し、審議要領の見直しも行い、セットで次回規格委員会に提案することになった。

②材料規格（2011 年版）改訂提案【資料 68-9-2, 3】

材料規格（2011 年版）改訂提案に関する説明が行われた。議論の結果、原子力専門委員会書面投票を実施すること、原子力専門委員会書面投票可決を条件に規格委員会に書面投票の実施を提案することが委員全員の賛成により承認された。

（10-4）使用済燃料貯蔵施設規格改訂案に関する審議【資料 68-10-1~5】

使用済燃料貯蔵施設分科会の三枝主査、片山副主査、阪田委員、下条委員、伊藤委員、川原氏（三菱重工）より金属キャスク構造規格関係の改訂案等について説明が行われた。内容は以下の通り。

①金属キャスク構造規格 質疑応答回答案【資料 68-10-1】

質問（QFA200708）に対する回答案に関する説明が行われた。回答案では質問の対象材料が金属キャスク構造規格事例規格「バスケット用アルミニウム合金 A5083FH-0 に関する規定」の材料である場合、回答は「良い」としているが、質問の趣旨と合致するか否か、質問者に確認することとなった。

②金属キャスク構造規格 誤記訂正対応案【資料 68-10-2】

金属キャスク構造規格密封容器溶接部の予熱温度の誤記訂正対応案に関する説明が行われた。議論の結果、対応案が妥当であることが委員全員の賛成により承認された。なお本件を規格委員会に説明する際は、該当する溶接規格のエビデンスを添付し、また変更部分を白黒印刷でも分かる様に雲マーク等で囲むことになった。

③金属キャスク構造規格 改訂版作成方針案【資料 68-10-3】

金属キャスク構造規格 2013 年版（仮称）の作成方針案に関する説明が行われた。議論の結果、方針案が妥当であることが委員全員の賛成により承認された。なお、材料規格 2008 年版はエンドースされておらず、使用不可となっているため、改訂版作成にあつてはその旨考慮することになった。

④金属キャスクバスケット用ほう素添加アルミニウム合金等事例規格案【資料 68-10-4-1~8】

金属キャスク構造規格（2007 年版）で規定されるバスケットに使用する材料としてほう素添加アルミニウム合金、アルミニウム合金が検討されており、規格化に際しての材料専門委員会レビュー状況について説明が行われた。第 14 回材料専門委員会においてレビューに対するコメント回答案が説明されており、現在はそれに対するコメントの集約等を実施中。今後は材料専門委員会におけるコメント回答が完了後、原子力専門委員会書面を実施することが委員全員の賛成により承認された。

⑤金属キャスク構造規格 溶接部機械試験事例規格案【資料 68-10-5】

規格委員会書面投票（反対票有り）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、規格委員会に対して規格委員会二次投票の実施を提案することが委員多数の賛成（賛成 19 票、反対 1 票）により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・密封容器を製作する場合の条件として「引き続き製作する場合」としているが、製品と機械試験板の溶接が同じであれば問題はない。
- ・試験板の作成に際しての条件で溶接線の長さが 60m 相当の容器を製造する期間が 2 年を超える場合には 2 年ごとに 1 個としているが、60m はともかく、2 年という期間は長いとの意見があった。溶接の品質は「引き続き製作する場合」の 6 条件で確保できるが、期間を無制限にするのは適切でないので、手溶接士の資格期限を参照して 2 年とした。
- ・今回、反対意見者との意見調整によって、表現の明確化のために本事例規格に記載されている「連続」という文言を「引き続き」に見直した。これは、技術的な修正ではないのかとの意見があったが、表現を誤解を招かないよう見直したもので、編集上の変更である。
- ・事例規格案（資料 68-10-5-5）の解説の部分の表現に、要求事項と誤解する表現があるので適宜見直すこと。

（10-5）維持規格改訂案に関する審議【資料 68-11-1~8】

維持規格分科会の野村主査、齋藤副主査、検査作業会の寺門主査、評価作業会の濱中幹事、補修作業会の山本主査より維持規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①磨き加工による応力改善方法規格案【資料 68-11-1】

原子力専門委員会書面投票（反対票有り）の意見回答案に関する説明が行われた。意見回答案に対する反対意見者からの回答は得られていないが、再度確認を行うことになった。確認の結果、反対意見が取り下げられない場合は、論点を明確にして二次投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下

の通り。

- ・本工法に関して適用範囲、効果保持期間等を規定すべきという意見があるが、元々本工法がBWRプラントのSCC対策に適用された際はその効果は暫定的なものと考えられていた。例えば本工法を適用することにより検査間隔を延ばすと言わないのであれば、その様な規定は不要ではないか？

- ・反対意見を出しても、提案者側からの回答に対してYES, NOをはっきり言わない委員がいる。この様な委員はいかがなものか？

②弁、ポンプの溶接継手に関連する非破壊検査要求の適正化案【資料68-11-2】

原子力専門委員会書面投票（反対票有り）の意見回答案に関する説明が行われた。反対意見が取り下げられないため、論点を明確にして二次投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・PLMの観点からもVT-3という要求は技術的に妥当とのことであるが、維持規格の定義において、VT-1とVT-3は明確に区別されている。少なくともVT-3で検出できる欠陥はVT-1よりも大きなものではないか？→検査精度の観点からVT-1とVT-3は同等である。

- ・ASMEにおける試験要求は2010年版ではどうなっているのか？→2010年版では評価不要欠陥寸法基準が規定されているが、2011年版ではサブリメント試験を実施した場合の基準として規定されており、目視試験からは切り離されている。

③【事例規格】ニッケル合金溶接金属のBWR環境中SCCき裂進展速度案【資料68-11-3】

規格委員会書面投票（反対票有り）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が妥当であること及び規格委員会に対して規格委員会二次投票の実施を提案することが委員多数の賛成（賛成18票、反対1票、保留1票）により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・これまでSCCき裂進展速度のデータは国プロ等で多数収集されているが、今回提示されたデータはその様なものの中にあつたのか？→今回のデータは導電率の条件等を満足しているものの中から選定したものである。

- ・最適フィッティングで線図を設定しているが、データ点数が不十分な箇所は例えば上限線で設定すべきではないのか？→データの最適フィッティング線図で妥当である。

④試験カテゴリC-F全体積UT代替可否案【資料68-11-4】

規格委員会書面投票（反対票有り）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が妥当であること及び規格委員会に対して規格委員会二次投票の実施を提案することが委員全員の賛成により承認された。

⑤テンパービード溶接工法改訂案【資料68-11-5】

規格委員会書面投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が編集上の修正であること及び規格委員会に対して回答案の説明を実施することが委員全員の賛成により承認された。

⑥JEAG4217-2010渦電流探傷試験指針の取込み案【資料68-11-6】

原子力専門委員会の書面投票提案に関する説明が行われた。議論の結果、書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

⑦封止溶接方法規格案【資料68-11-7】

原子力専門委員会の書面投票提案に関する説明が行われた。議論の結果、書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・封止溶接方法における供用中検査の検討という機械学会ノートが参考に添付されているが、封止溶接方法の規格化後、発行予定となっている。本ノートが封止溶接方法の規格化の根拠になるのであれば、規格化を待たずに直ちに発行すべきではないのか？→早期に発行すべく検討する。

⑧維持規格 2012 年版での編集上の修正提案【資料 68-11-8】

維持規格 2012 年版での編集上の修正提案に関する説明が行われた。議論の結果、修正提案が委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・JISZ8401 の年版変更に伴う評価として、数値の丸め方の考え方は変わっていないとなっているが、新 JIS は ISO 対応で全面変更になっているのではないかと。→体系が変わっただけである。

(10-6) 溶接規格改訂案に関する審議【資料 68-12-1~4】

溶接分科会の杉江幹事より溶接規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①設計・建設規格及び材料規格適用年版見直し【資料 68-12-1】

原子力専門委員会書面投票（反対票有り）の意見回答案に関する説明が行われた。本件、反対意見者は回答案を了解済で反対意見を取り下げており、議論の結果、回答案が編集上の修正であること及び規格委員会に書面投票の提案を行うことが委員全員の賛成により承認された。

②溶接後熱処理改訂【資料 68-12-2】

原子力専門委員会二次投票（可決）／再投票（反対票有り）の意見回答案に関する説明が行われた。再投票分については、反対意見者は回答案を了解済で反対意見を取り下げており、回答案は提案内容の一部修正になるため、原子力専門委員会再投票を行うことが委員全員の賛成により承認された。投票期間は 2 週間となった。

③破壊靱性試験方法及び判定基準等改訂【資料 68-12-3】

規格委員会書面投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、意見回答案が編集上の修正であること及び意見回答案を規格委員会に説明することが委員全員の賛成により承認された。

なお、編集上の修正であるか否かについて採決した際、溶接後熱処理の目的の解説の記載を「靱性を回復させる」から「延性や靱性を回復させる」に変更しているが、「延性」の追加は編集上の修正には当たらないという意見が出たため、「延性」は削除することになった。

④溶接規格 2012 年改訂版案【資料 68-12-4】

溶接規格 2012 年改訂版案の原子力専門委員会書面投票提案について説明が行われた。議論の結果、原子力専門委員会書面投票を実施すること及び原子力専門委員会書面投票可決を条件に規格委員会に書面投票の実施を提案することが委員全員の賛成により承認された。

(10-7) 設計・建設規格改訂案に関する審議【資料 68-13-1~3】

設計・建設分科会の永田主査より、設計・建設規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①設計・建設規格への質問回答案件【資料 68-13-1】

質問（QNC200586, 87）に対する回答案について説明が行われた。議論の結果、回答案が妥当であることが委員多数の賛成（QNC200586 賛成 20 票；QNC200587 賛成 19 票、保留 1 票）により承認された。主な議論は以下の通り。

・QNC200587 について、寸法の許容差に関する解釈は解説に記載すべきではないか？→検討する。
・QNC200587 の(1)の記載は「その様な解釈はできない。使用は認められない。」とする。また(2), (3)は「追って回答予定」とする。

②設計・建設規格第 I 編 2012 年改訂版追加改訂案【資料 68-13-2-1, 2】

設計・建設規格第 I 編 2012 年改訂版追加改訂案の原子力専門委員会書面投票（一部反対票有り）回答案に関する説明が行われた。議論の結果、反対票が出されている案件の原子力専門委員会二次投票／再投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な内容は以下の通り。

- ・ JEAC4207 年度変更案については時間軸直線性誤差が 2%から±1%の変更のみ再投票とする。また探傷子の走査の重なり 10%は変更しないことで 2 次投票とする。Δx は誤差の片振幅を表しており、記載を検討する。
- ・ 鍛造品の定義は 2 次投票とする。

③設計・建設規格第 I 編 2012 年改訂版改訂案【資料 68-13-3-1, 2】

設計・建設規格第 I 編 2012 年改訂版改訂案の規格委員会書面投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が妥当であること及び規格委員会に対して回答案の説明を実施することが委員全員の賛成により承認された。

（1 1）各分科会活動報告【資料 68-15】

各分科会より活動報告が説明された。

6. その他

原子力専門委員会の次回は 5 月 30 日（水）、次々回は 8 月 29 日（水）開催となった。

以上